

社会科 地理的分野 考える課題 3

3年 組 番氏名 _____

東北地方の自然災害の自宅学習課題です。ノートに貼っておきましょう。(評価対象)

参考アクティブ地理P 1 3 1、1 9 3

1 これまで東北地方(太平洋岸)を襲った津波の歴史を確認しましょう。

1793 年 2 月 17 日 (和暦:寛政 5 年 1 月 7 日)	<寛政 5 年の津波>
1856 年 8 月 23 日 (和暦:安政 3 年 7 月 23 日)	<安政 3 年の津波>
1896 年 6 月 15 日 (和暦:明治 29 年 6 月 15 日)	<明治三陸地震津波>
1933 年 3 月 3 日 (和暦:昭和 8 年 3 月 3 日)	<昭和三陸地震津波>
1960 年 5 月 24 日 (和暦:昭和 35 年 5 月 24 日)	<チリ地震津波>
2011 年 3 月 11 日 (和暦:平成 23 年)	<東日本大震災>



東北地方は地震による津波被害をおよそ _____ 年に 1 回は受けている地域になります。

津波の被害を受けやすいのは _____ 海岸という地形も影響しています。

それでもこの地域に人々住み続ける理由は何でしょうか。

⇒ 目の前に広がる太平洋の海の恵み _____ 海流と _____ 海流のぶつかる _____

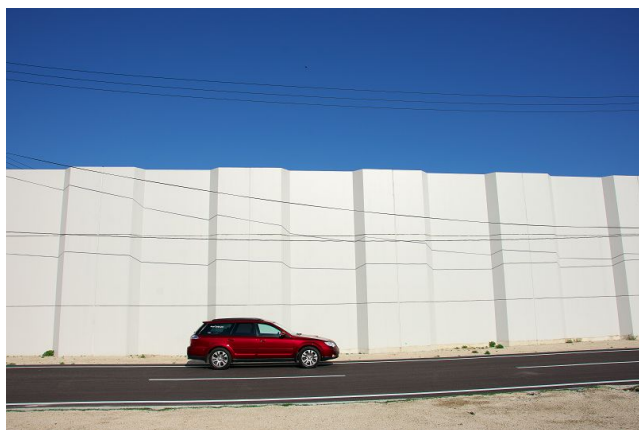
三陸沖は世界三大漁場と呼ばれる魚の宝庫。日本有数の漁港がたくさんあります。

東北 3 大漁港は _____ (アクティブ P 1 3 1)

生きるために、津波が来るからといって、この地を離れるわけにはいかない

2 この地域に生活しながら、津波の被害をどのように防いでいくか。

① 日本政府の政策 津波が来ても大丈夫なスーパー防潮堤をつくる



車の高さ 1. 6 m



右が海側

右の計画で現在建設がすすめられている三陸海岸の防潮堤。

写真は 2 0 1 9 年 5 月に川原先生が撮影したものです。

次の大津波の際、この防潮堤で防ぐことができるか。

地元では賛否両論、安心できる、海が見えず景色が悪化した。

このお金を被災者の住宅建設に、大手の建設会社が儲かるだけ。

	岩手県	宮城県	福島県
箇所数	134	382	72
総延長	83 ^{km}	240 ^{km}	72 ^{km}
最大の高さ (設置市町村)	15.5 ^m (普代村)	14.7 ^m (気仙沼市)	8.7 ^m (富岡など 4市町)
事業費	1兆3500億円 (青森、茨城、千葉県の事業を含む)		

※国土交通省などによる

② 岩手県 宮古市田老町地区のとりくみ

田老という町は、1960年のチリ地震で大きな被害を受け、数十年をかけて独自のスーパー防潮堤を建設し、絶対安全といわれ国内のみならず外国からも注目されていた。 し か し・・・。

3. 11前の田老の町(2006年)

2011年5月5日の田老の町



高さ5～6mあった防潮堤のうち、幅（厚み）のあるものは破壊されなかったが、津波はその上を乗り越えて町を襲った。

幅のないものは右のように破壊され無残な姿を晒した。



田老地区では宮古市の提案を受けて、住民は今後の町の復興のあり方について話し合いをすすめていくことになった。話し合いはすでに終わり、町の再生は始まっている。

ここで課題です。

あなたが田老地区の住民の一人として、町の再建をどのようにすすめていくか、その計画を考えなさい。

検討課題 次の津波が来た際に、どういう方法で住民の命と生活を守るか。
国が建設するスーパー防潮堤をどのように考えるか。（信頼するかしないか）
住宅地区、商業地区、漁業関係施設をそれぞれどこに配置していくか、
住宅地は高台か平地か、津波の際の高台への避難ルートの確保などを検討。

条 件 国のスーパー防潮堤は田老の町にも建設される。
平地部は狭く、背後には山地がある。
次のページの震災地図を参考にする。
大災害の津波は50年に1回程度やってくるとする。

田老町の震災地図

